

- 今月の内容 ●食品トレーサビリティの導入におけるメリットと課題
●プロバイオティクス食品について
●カーボンニュートラルな糖質とその利用について
●リポキシゲナーゼ欠失大豆の食品利用

食品トレーサビリティの導入におけるメリットと課題

感染症を発症した家畜の発生、食中毒事故、輸入野菜や果物の残留農薬問題、農畜水産物の産地偽装など、この数年間に食品の安全性を損なう事件や事故が多発しています。このため、食品トレーサビリティが注目されつつあります。そこで本稿では、そのメリットと課題を簡単に紹介します。トレーサビリティは生産、処理・加工、流通・販売等の各段階で、食品の仕入先、販売先、生産・製造方法などの情報を記録、保管し、食品とその情報を追跡・遡及できる管理方法のことです。情報はバーコードや二次元コード、識別番号等を用いて管理し、パソコンや情報端末を用いて内容を把握します。

<メリット>

1. 消費者の信頼性を得ることができます

生産から販売までの各履歴の管理により、消費者からの問合せに対して正確な説明をすることができます。また、インターネットの利用により消費者が直接照会することもできます。消費者は自分が食べる食品の履歴がはっきりすることにより、安心・信頼感を得ることができます。

2. 事故発生時における対応が迅速に行えます

商品の流通状況が把握できるため、回収を速やかに行うことができ、被害を最小限にできます。また、履歴情報から事故の発生段階や原因を究明することが容易になり、対策を講じ易く

なります。

3. 商品管理に利用することができます

販売履歴から産地別の売れ行きなどの消費動向や品質のばらつきなどを把握することができます。生産調整や在庫管理に利用することで経営に役立てることができます。

<課題>

1. いかにランニングコストを抑えるか

パソコンやバーコード読み取り機・印刷機の機器設置費、システム管理費などの費用が必要になります。導入したシステムの機能を最大限活用することにより、ロット管理の強化を行い、製造ロスや廃棄ロスを減少させるなど、コスト抑制法を検討する必要があります。

2. 生産性の低下をどのように抑制するか

データ入力など、新たな作業の導入が必要になり、生産性の低下が懸念されます。作業手順を見直し、作業効率の向上を検討する必要があります。

食品に対する安全性の確保は消費者、食品関連企業においてさらに重要な問題になると思われます。トレーサビリティについて詳しい内容が農林水産省のホームページ (<http://www.maff.go.jp/trace/top.htm>) に記載されているので、一度ご覧になってはいかがでしょうか。

